

岩手県滝沢村

大 畑 遺 跡

—昭和48年度調査報告—

昭和48年10月

滝沢村教育委員会

岩手県滝沢村

# 大 畑 遺 跡

—昭和48年度調査報告—

草 間 俊 一  
菊 地 常 雄  
袖 林 邦 夫

昭和48年10月

滝沢村教育委員会

## 序 文

滝沢村の中でも、胸形(蒼前)神社を中心とする上鵜飼地区は、最も遺跡の多い所で、早くから土器や石器が発見され注目されておった所であります。

近年宅地造成等の土地開発がすすみ、埋蔵文化財の包含地が破壊されてゆくのを憂い、早急に調査し、記録によって保存すべきだという要望も高まり、当教育委員会としても文化財保護の立脚から、今回大知遺跡の発掘調査を実施することになりました。

早速、土地所有者三上昭太郎・三上良之助・牛抱敬一郎の三氏に、発掘について協力をお願いしたところ、心よく受諾して下さいました。

この調査を、岩手大学教養部長草間俊一教授にお願い申し上げたところ、ご多忙の毎日にもかかわらずご承引下され、また元能経教小中学校校長菊地常雄氏・故矢巾正三郎氏(村文化財調査員)の積極的な調査への協力や、鶴飼老人クラブ会員の奉仕的な協力により調査をすすめることができました。

心から厚くお礼申し上げます。

なお、本報告の作成にあたって、第1章・第4章は岩手大学草間俊一教授が執筆下され、第2章は社教主事袖林邦夫・第3章は滝沢村文化財調査員菊地常雄氏が、それぞれ草間俊一教授の指導のもとに執筆し、写真図版第3図～第8図は岩手大学教養部高橋哲郎氏の協力をいただいたものであります。

最後に、この調査に参加協力下さいました関係各位に深く感謝申し上げて序といたします。

昭和48年11月

滝沢村教育委員会

教育長 高 橋 久 雄

## 目

## 次

序 文	教育長 高 橋 久 雄
第1章 まえがき .....	1
第2章 調査の概要 .....	2
(A) 大畑遺跡の位置 .....	2
(B) 調査の計画 .....	4
(C) 調査日誌 .....	4
(D) 調査区の設定と順序 .....	5
第3章 主な遺物 .....	8
(A) 土 器 .....	8
(B) 石 器 .....	9
(C) 土 製 品 .....	9
第4章 まとめ .....	11

## 図 版 ・ 挿 図 目 次

	図 版		挿 図	
第1	1図 遺跡の遠景	17	1図 大塚遺跡位置図	3
	2図 発掘の状況	17	2図 発掘地点見取図	3
	3図 地層の断面	17	3図 A地区北壁断面図	6
第2	1図 土器の出土状況	18	4図 D地区北壁断面図	7
	2図 土器の出土状況	18	5図 石器実測図	15
	3図 土器の出土状況	18		
第3	1図～11 出土土器	19		
第4	1図～17 出土土器	20		
第5	1図～18 出土土器	21		
第6	1図～26 出土土器	22		
第7	1図～18 出土土器	23		
第8	1図～21 出土石器	24		
(第3～第8の図版説明は ページ参照)				

## 第 1 章 ま え が き

滝沢村は盛岡市街の西北方に位置し、岩手山頂の一部を村域とする広大な村であるが、大半は山地となっている。

その山麓につづく平地の部分は盛岡市街の隣接地として、近年は盛岡市の住宅地として発展し、市と村の境界もわからなくなってきた。しかし、山麓地帯は未だ宅地造成の手はのびていないが、近年の変貌は著しい。

この地域の山麓一帯には縄文時代の遺跡が分布している。中でも上籐木の地域は良好な遺物包含地であったが10年前開田で遺跡は壊滅した。

今度調査した大畑遺跡はそれに匹敵する遺跡で、故矢巾正三郎氏がこの地に住んで遺物採集に関心を示したことによって注目された遺跡である。

この大畑遺跡に続く手前の「チャグ・チャグ馬ッロ」で有名な駒形神社周辺にも多数の遺物が散布していたが、その一部外久保遺跡も数年前開田で壊滅してしまうなど、主要な遺跡が何ら調査をしないまま破壊されて行く現状に対して、是非大畑遺跡だけは調査して、保存するようにしたいと希望した。

村教育委員会も近年の遺跡破壊に対し、是非調査し、今後の保存方策をこうじたいと希望を示し調査を依頼された。

私も用事が多く、十分な日程がとれないので、その一部の遺跡を現状だけでも菊地常雄氏と協力して調査を実施することにした。

調査は広大な遺跡のごく一小部分で遺跡の全貌を知るというところまでは到底及ばないが、調査したところの遺物の包含状態は良好で、完形土器を含む多数の遺物が出土した。

その概要を報告し、今後の調査の参考にしたいと考える。

なお調査に当たって教育長高橋久雄氏はじめ社教主事袖林邦夫氏、地元の地主はじめ調査に協力して下さった老人クラブの人々には大変お世話になったことを記して厚く感謝の意を表する。

## 第2章 調査の概要

### (A) 遺跡の位置

大畑遺跡は岩手県滝沢村大字鶴岡字上鶴岡にあり、通称大畑と呼ばれ、標高200m内外のところに位置する。

西方に高峰山(標高420.1m)を中心に丘陵地帯が南北に連なり、その東方山麓に扇状地状にゆるやかな傾斜をもって開け現在大部分は畑地となっている(図版1の1)。

この山麓地帯には遺跡が多く、近くには外久保遺跡(縄文・土師・須恵器出土)があり、他にも土器・石器の破片が表面に出ている所が多く見受けられる。

大畑遺跡の東端は鬼越坂よりの小川が流れ、水の便もよく当時の人間生活には適切な環境であったと考えられる。

後述のように土器の種類も多く、その包含地の面積も1ha以上の広い面積にわたっていることが推定される。

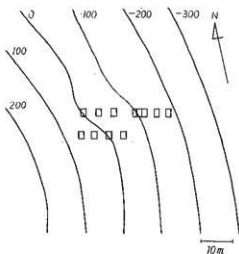
挿図 1



大畑遺跡位置図

×印 遺跡所在地

挿図 2



発掘地点見取図

- 1 数字は基準杭よりの高さを示す  
(単位:cm)
- 2 □印は発掘範囲を示す  
(北の方がA、南の方がD)



## (B) 調査の計画

発掘調査は昭和48年4月4日より4月10日までの6日間実施した。

### 調査主体

滝沢村教育委員会

### 発掘担当者及び調査員

草間 俊一 県文化財専門委員 岩手大学教授

菊地 常雄 (元雄達小中学校校長)

矢巾正三郎 (村文化財調査員)

### 調査補助員

三上長之助 三上 清幸

三上三五郎 高橋 勝道

三上 辰蔵 藤村 三太

三上マツエ 工藤与四郎

### 庶務・連絡係

袖林 邦夫 (滝沢村社教主事)

## (C) 調査日誌

### 4月4日(水) 曇り

朝9:30分教育委員会出発。9:45分現場着。直ちに作業開始(人夫8人)調査区の設定後、発掘の要領について説明を聞く。

発掘場所-A2・4・5・10・12区とD1区

発掘状況 A2・4・6区の遺物は少なく調査を終了。A10・12区とD1区は多数の土器片が出土したので、そこを主として調査する。復原可能2点出土す。

4:30分作業終了。

### 4月5日(木) 晴

作業開始9:30分(人夫8人)

発掘場所-A10・12・14区とD1・3・5区

発掘状況 A10・12区は深さ40cm前後より土器片が集中出土す。その割に復原可能なものが少なかった。石器は石皿他3点と土偶の脚部出土す。

4:30分作業終了。

### 4月6日(金) 晴

作業開始9:30分(人夫9人)

発掘場所-A10・12・14・16区とD3・5区

発掘状況 D3区より完形土器1点と焼土・木炭片が出土す。作業にも慣れ仕事が進捗にすすむ

4:0分作業終了。

4月7日(土) 晴

作業開始9:30分(人夫10人)

発掘場所-D3・5・7区

発掘状況 D5より石器4点出土す。土器は全般的に出土量が少なく深さ50cmで殆んど出土遺物なし。

4:30分作業終了。

4月9日(月) 晴

作業開始10:0分(人夫3人)

発掘場所-A11・12区

発掘状況 A10・12区より多くの土器片が出土したので、その中間のA11区の調査を行う。予想どおり多くの遺物が深さ40cmより集中出土す。土器復原可能2点、石器3点出土す。

4:30分作業終了し本年度分の調査を完了した。

4月10日(火) 晴

作業開始9:30分(人夫2人)

午前中調査地の埋立を行い調査を終了した。

## (D) 調査区の設定と層序

### (1) 調査区の設定

西側の山麓から東側に扇状に広がる教haの広い傾斜面の北側のほぼ中央に基準点を設け、それより東西に直線を引き、それより南向を調査することにした。

その基準線より、南向を2m毎にA・B・C・D……とし、基準点より東に向かって2m毎に1・2・3・4・5……区と地区設定を行った。そのうちのA行の2・4・6・10・11・12・14・16の8区とD行の1・3・5・7の4区の計12区を調査した。

### (2) 層序(図版1~3)

A区・D区とその層序は大差ないので一括して述べてと。

第1層 黒色の表土層で、20~25cmの厚さがあり、現在耕土となっている。土壌の攪乱が著しく、縄文式土器の小破片が散在する程度である。なお、地上の表層で石鍬などが採集されることがある。

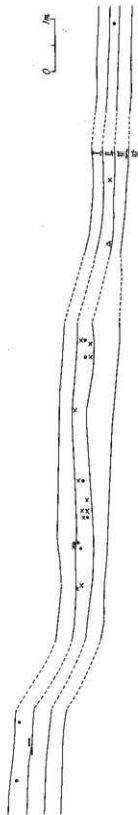
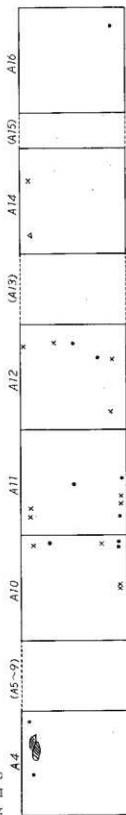
第2層 地表面より20~45cmのところにある黒土層である。この層には最も多くの遺物が含まれており、黒色遺物包含層ということが出来る。

第3層 地表面下45~80cmのところにある黒褐色土層である。この層の遺物包含量は少なく、この層の上部に若干土器が混入している程度であった。それ以下には何らの遺物もなかった。

第4層 80cm以下(所により60cm)は黄褐色のローム層となっていた。

なお、A4区の第1層下、第2層の上及びD3区の第2層に40cm×30cm、厚さ1~2cmの焼土層があり、周りに木炭が散在していたが、住居跡(堅穴跡)は確認できなかった。

神田 3

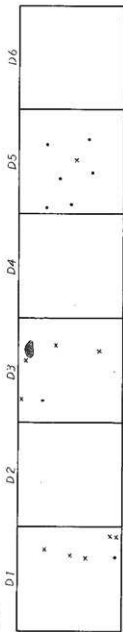


A1レン子4-1/6区北段断面図  
 水糸レベル標高より-100cm

S-

- I 黄土層
- II 黄褐色層(遺物を含む)
- III 黒土褐色土層
- IV 砂層

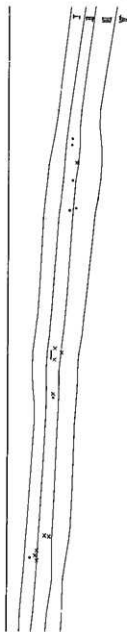
神図 4



Dトレンチ1へ6此型断面図  
 水深レベル標高より100cm

S<sup>m</sup>

- I 表土層
- II 黒色土層 (遺物包含量が多い)
- III 黒土褐色土層
- IV ローム層
- △ 遺物
- 標高
- 土



### 第3章 遺物の概要

#### (A) 土器

今回の発掘調査で出土した土器片は、ダンボール箱で約10ヶあり、現在未整理中のものもあるが、殆んど全部が縄文晩期の大洞式土器である。それに僅か早期の貝殻文土器と、後期末葉の土器が混在していた。これらは層位的な区分は出来なかったが、文様の上から分類すると次の如くなる。

##### 第1類 縄文早期の土器(図版4の1~4)

アカガイかサルボウの貝殻の腹縁の庄底文(1・2・3)と貝殻の腹でこすってつけた条痕文(4)が第2層より3片出土し、表土より1片採集された。何れも小破片のみで、全形は窺うことは出来ない。

##### 第2類 縄文後期末の土器(図版4の5~12)

いわゆるコブ付土器に後続する一型式である。(6)はその時期の細楯目状沈線文である。(7)と(8)は少し変わった文様の土器であるがこの時期に併行するものと考ええる。

なお(10~12)は大洞B式の入組文に発展するものであり、人によれば大洞B<sub>1</sub>式またはB式の古式としているものである。

また、(7)には丹が塗ってあった。

##### 第3類~第6類 縄文晩期の土器(図版3~7)

##### 第3類 (図版4の13・14、図版5)

大洞B式に属するものと考えられる土器で、文様は殆んど口頸部に集中して、入組文(図版5の1・2・6・9・14・17)、三叉文(図版4の14・15 図版5の3~5・8・12・16)、X文(図版5の7・10・11)があり、三叉文では滑沢な面に浮彫的に表現されて口縁に違っているものがあり、小形のものもあったが、概して大形のものが多かった。器形は大部分、鉢・注口であった。

##### 第4類(図版3の1・8、図版6)

大洞BC式に属するものと考えられる土器で数量共多く出土したが、文様は入組文より変化した羊歯状文が大部分で、多形に変化に富み、大洞C<sub>1</sub>に移行する段階がよく見られる。小型の鉢が多く、装飾文様に富み口縁に2個一対の小突起のあるものが見られた(図版3の5、図版6の11)

##### 第5類(図版3の10、図版7の1~18)

大洞C<sub>1</sub>式に属するものと考えられるものでBC式に次いで多く出土した。

羊歯状文の形式が一部残存しているが首部文様の主体は2本の沈線間を刻み目で埋めた列庄文(図版7の1~4・8・10・14・15・18)で平行沈線が多く使用されている。

また、胴部の文様として、雲形文が整備されて擦消縄文の手法が効果的に表現されている。

器形には、鉢・台付鉢・皿などがある。

丸底の底面にも浮彫的な文様のあるのが2点出土している(図版7の12)

## 第6類(図版7の19)

大洞C<sub>2</sub>式に属するもので、文様として水平沈線が首部にあり、その間に刻み目を入れてある。破片が数片出土したのみである。

なお、この期のものに板小形無文の注口土器(高さ3.5cm)がD1の2層より、瓢箪形土器(高6cm・巾3cm)がD3の2層より袖珍土器が出土している。

### まとめ

今度の調査で採集された土器は以上の如くであるが、この附近で採集した矢巾正三郎氏の資料のうちには、縄文前期・中期と思われるものが多数含まれているので今後この地区の調査を行って、その遺跡としての性格を明らかにしたいと考えている。

## (B) 石 器

出土した石器の種類は石鏃・石ヒ・磨製石斧・石棒・石皿等である。

### ① 石鏃(図版8の1)

唯1点のみA10第2層より出土、有柄で精巧なものである。石材は陸質頁岩である。

### ② 石ヒ(図版8の2~8)

横形が多く、1点(B)はつまみが入念に仕上げられている。完全なものは3点(4・5・7)他は一部破損している。石材は陸質頁岩である。

### ③ 磨製石斧(図版8の9~11)

4点出土の内、1点(B)はやゝ完全、他は折損している。石材は蛇紋岩・粘板岩である。

### ④ 石棒(図版8の12~16)

6点出土、何れも破片のみである。石材は粘板岩である。

### ⑤ 敲石(図版8の17・19・20)

3個が出土している。石の一部面がよく磨滅して使用されたことが思われる。

石材は安山岩である。

### ⑥ 石皿(図版8の21)

安山岩で作られた4分の1大の破片が1片出土、原形は40cm×30cm位で縁部は1cm位高く、中央部は磨滅している。

### ⑦ 小円盤形石(図版8の18)

円形平型(直径40mm、厚さ17mm)で用途不明である。石材は安山岩である。

## (C) 土 製 品

### 土偶(図版4の15~17)

・縄文後期安行2式(図版4の15)のものと思われる胸より下部の破片1点出土、胸部に竹管の押型文

3列あり、脚部は当初より付けないものようである(65mm×35mm)。

・羅文院期大洞B式(図版4の16・17)のものと思われるものの破片で胴部3分の1位(60mm×30mm)全面に唐草模様のものと、遮光器をかけているような目と耳の部分の破片が1片出土している。

## 第 4 章 ま と め

以上今回調査した大畑遺跡の概要であるが広大な遺跡のごく一部分の調査に留まっていて、表面採集によって得られている資料の一部にしかすぎず、今後の調査によって、この遺跡がどのような時期に亘り、どのような性格のものであるか明らかにしていきたいと考えているが、今度の調査は縄文晩期前半の遺物を包含する良好な遺跡であることが明らかになった。

なお、早期の貝殻文は従来知られなかったものであり、今後の調査によってこの時期の良好な遺物包含する場所も明らかになることも予想されるが、一応今度の成果をここにまとめて報告し、今後の研究の資にしたいと考えるものである。



図版説明 (第3~第8)

図版番号	類別	出土地	層位	大 き さ		
				高 さ	口 径	底 径
3図 1	第4類	A12	2下	8	10	九
2	#	A12	2下	5.5	6	九
3	#	A10	2上	13	8	4
4	#	A11	1下	※3.5	※7	※3
5	#	A11	2下	※7	※5.5	4
6	#	A10	2	14	11	※6
7	#	D3	2下	9	8.5	5
8	#	A11	2	11	14	5
9	第5類	A12	2下	21	12	8.5
10		D1	2下	3	2	九
11		D3	2下	※5	※1	※2

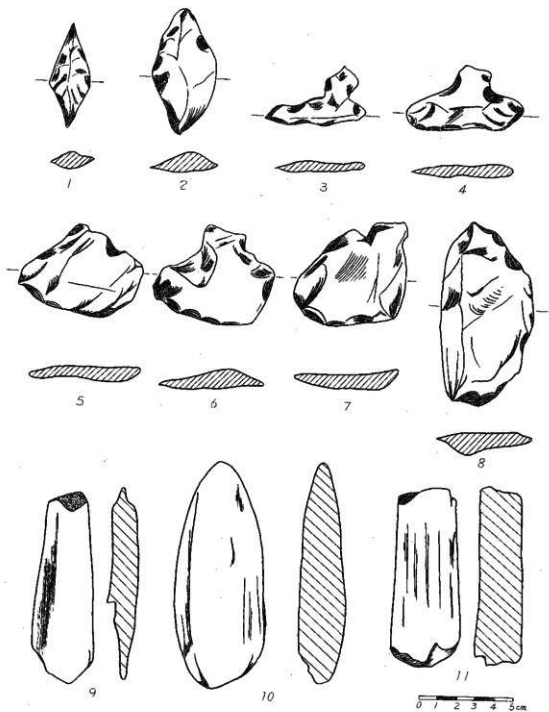
※欠損のため現大きさ記入す。

図版番号	類別	出土地	層位	図版番号	類別	出土地	層位
4図 1	第1類	A10	表採	4図16	第3類	A10	2
2	#	A4	2下	17	#	A11	2
3	#	A14	2下	5図 1	#	D5	2
4	#	A12	2上	2	#	D5	2
5	第2類	A12	2下	3	#	D5	2
6	#	A12	2下	4	#	A4	2
7	#	D1	2	5	#	D5	2
8	#	A12	2下	6	#	D3	2
9	#	A12	2下	7	#	D1	2
10	#	D1	2	8	#	D5	2
11	#	D1	2	9	#	A4	2
12	#	D1	2	10	#	A10	2
13	第3類	D5	2	11	#	A10	2
14	#	D5	2	12	#	A10	2
15	第2類	A14	2下	13	#	A10	2

図版番号	類別	出土地	層位	図版番号	類別	出土地	層位
5図14	第3類	A10	2	6図25	"	A11	2
15	"	A11	2	26	"	A11	2
16	"	A10	2	7図1	第5類	A11	2
17	"	A11	2	2	"	A10	2
18	"	A11	2	3	"	A11	2
19	"	A10	2	4	"	A11	2
6図1	第4類	D5	2	5	"	A11	2
2	"	D5	2	6	第5類	A11	2
3	"	D5	2	7	"	A11	2
4	"	D5	2	8	"	A11	2
5	"	D5	2	9	"	A11	2
6	"	A10	2	10	"	A11	2
7	"	A10	2	11	"	A11	2
8	"	D3	2	12	"	A11	2
9	"	A10	2	13	"	A11	2
10	"	A10	2	14	"	A11	2
11	"	A10	2	15	"	A10	2
12	"	A10	2	16	"	A10	2
13	"	A10	2	17	"	A10	2
14	"	A10	2	18	"	A10	2
15	"	A11	2	19	第6類	A11	2
16	"	A11	2	8図1	石 鏃	A10	2 下
17	"	A11	2	2	石 匙	A11	2 下
18	"	A11	2	3	"	A12	2 下
19	"	A11	2	4	"	A12	2 下
20	"	A11	2	5	"	D5	2 下
21	"	A11	2	6	"	A12	2 下
22	"	A11	2	7	"	A11	2 下
23	"	A11	2	8	皮はき	D5	2 下
24	"	A11	2	9	石 棒	A10	2

図版番号	類別	出土地	層位	図版番号	類別	出土地	層位
8図10	石 斧	D 5	2 下	8図16	石 棒	A 4	2
11	#	D 5	2 下	17	くぼみ石	D 5	2 下
12	石 棒	D 5	3 上	18	円盤形石	A 11	2
13	#	D 5	3 上	19	たたき石	A	表 採
14	#	D 7		20	#	D 5	2
15	#	D 5	2 下	21	石 皿	A 10	2

神图 5

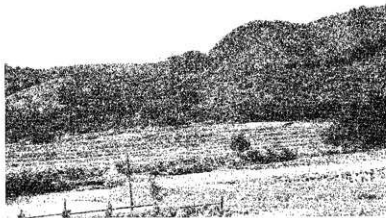




図版 1

1 回

遺跡の遠景



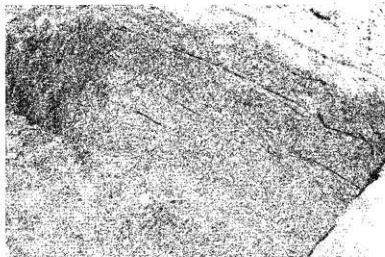
2 回

発掘の状況



3 回

地層の断面



図版2



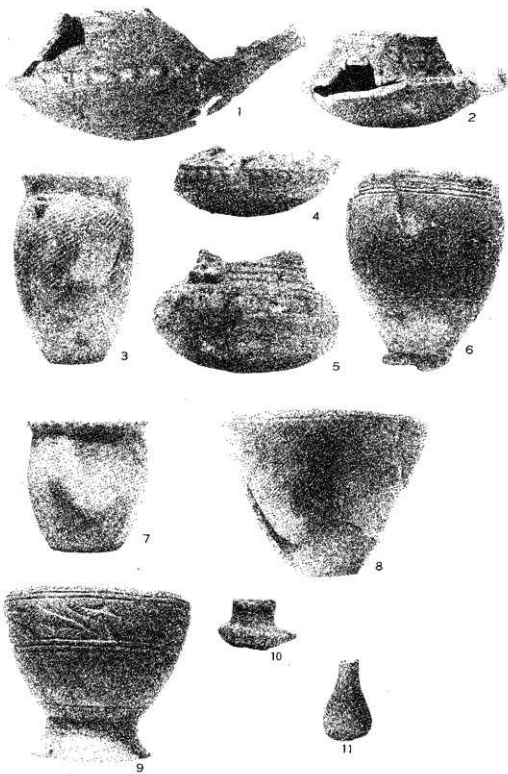
1図  
土器の出土状況

2図  
土器の出土状況



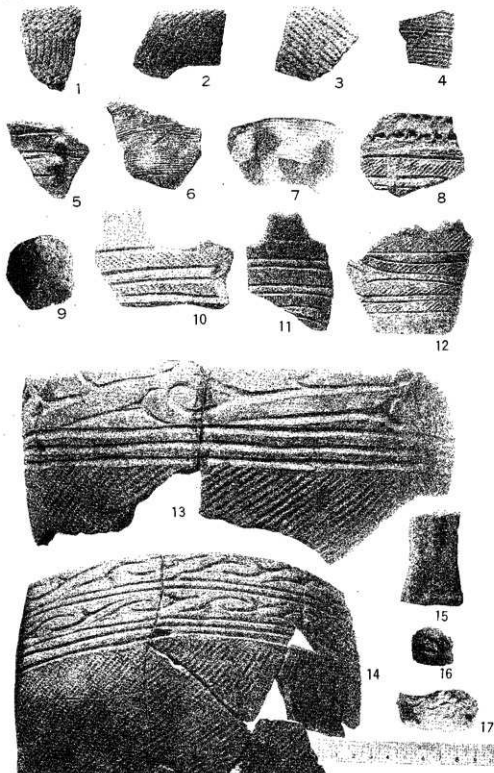
3図  
土器の出土状況

图版 3

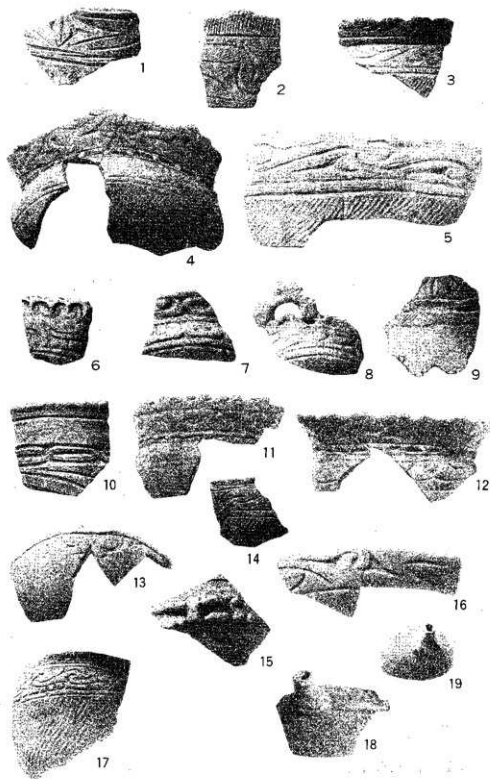




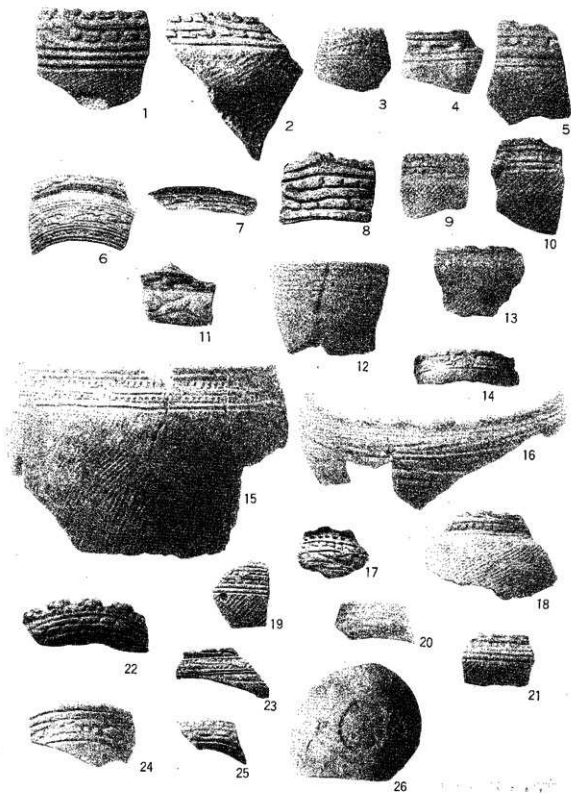
图版4



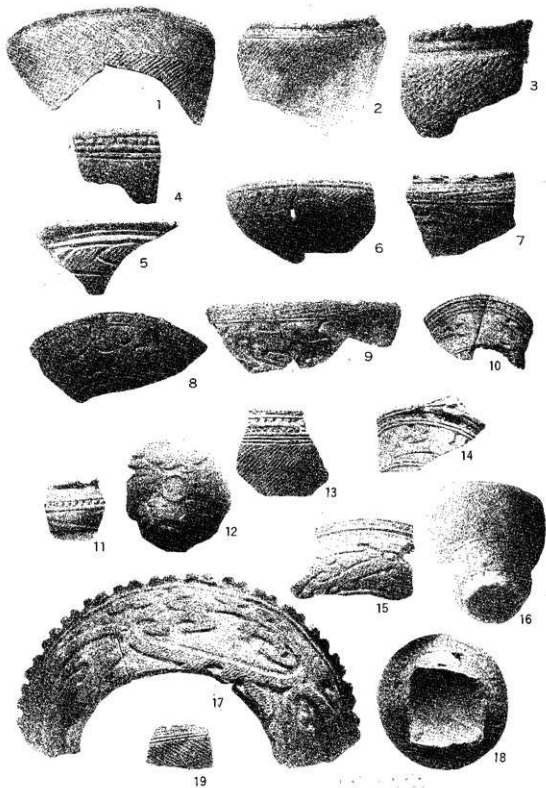
图版 5



图版 6



图版 7



图版 8

